

西東京市議会議長 小林たつや様

保育園、学校、その他こども関連施設、公園等における土壌及び水場の
放射性物質調査を求める陳情

【陳情事項】

西東京市独自に、保育園、学校、その他こども関連施設、公園等で放射性物質が溜まりやすい場所の土壌及び水場の放射性物質を測定調査して、調査結果を公表してください。

【陳情理由】

ご存じのように東電福島第一原発の重大事故による放射性物質汚染は、福島県にとどまらず、日本各地に広がっています。空気、水、食べものなどすべてに汚染は進んでいると思われまます。特に土壌汚染に関しては私たちも非常に不安を感じております。

放射性物質は風によって運ばれてくるため、風向きにより、放射性物質が溜りやすいホットスポットが形成されています。西東京市周辺は、風の収束帯となるため（西東京市環境基本計画）、放射性物質がどのように運ばれてきているのか一層不安に思います。

川崎市では、先般、市民団体が市内で空間線量を測定したところ、児童プール近くで高い値となり、市が改めて地表5cmの空間線量を測定。0.9 μ s/hを計測したため、8月18日に土壌に含まれる放射性物質量を調べたところ、放射性セシウムが12,400Bq/kgと高レベルであったことから、プールを使用中止にしたそうです。その場所は、市が7月上旬に、プールの底にたまっていた土砂やプールサイドの枯れ葉などを溜めてあったところで、急遽立ち入り禁止にしたそうです。プールの水については、7月21日に測定し、放射性ヨウ素、放射性セシウムいずれも不検出、また、プール入り口付近の放射線量は0.07 μ s/hだったそうです。

西東京市でも、このようなホットスポットが出来ているのではないのでしょうか。その有無が不明なため、さらに不安を募らせています。近隣では、武蔵野市、小金井市、国立市等が、校庭や公園の土壌調査を実施しており、川崎市ほど大量ではありませんが、放射性セシウムが検出されています。この3市の調査結果を見ると、空間線量の多寡と土壌の放射性物質量の多寡は必ずしも一致していないため、土壌の放射性物質の実際の測定調査が不可欠と思います。

したがって、西東京市独自で、保育園、学校、子ども関連施設及び公園など子どもたちが集まる施設の放射性物質が溜まりやすい場所の土壌の放射性物質の調査をするよう強く要望します。

また、公園の水場など子どもたちが利用する溜り水のある環境は、放射性物質を含んだ雨水を溜める場所となりやすいため、測定調査が必要であると思います。

なお、測定結果については、公表してください。

西東京市柳沢1-4-18

電話・ファックス 042-461-3246

市民自治井戸端会議代表 柳田由紀子